ダブルケアシンポジウムの趣旨

（2015年1月20日）

長谷部　勇一

主催者である私ども横浜国立大学経済学部附属アジア経済社会研究センターは，アジア経済の社会，経済面の国際的な研究拠点として，研究プロジェクトを企画，運営，推進する役割を担っています．経済統合と社会統合の両面からアジア域内の持続的な発展に関する実証的，理論的研究に取り組んでおります．

持続的発展（Sustainable Development）というのは，従来，環境経済学の中で自然環境と両立する経済成長の在り方を考えるということで出てきた言葉です．現在ではその意味を更に広げ，単に経済だけではなくて，社会そのものがいかに安定的になるかどうかという事も含めて考えています．

たとえば現代のアメリカ社会において，人種問題に端を発して暴動が頻発しています．社会内部の対立関係が克服されず，お互いの信頼関係が希薄である社会は長期的には安定性を欠くものと言わざるを得ません．したがって，持続可能な社会，単に環境だけではなくて，我々の社会そのものの安定，あるいは安心な社会をいかに形成するかということ，すなわち社会統合ということが大事になってくると思います．社会の重要な構成要素は，言うまでもなく家族です．高度経済成長から低成長時代に入り，少子高齢化を迎えた現在，家族のあり方も大きく変わりました．家族の中で，特に女性が子育てというケアと親の介護というケアを同時期に行うという「ダブルケア」という問題が顕在化しています．社会制度が縦割りとなっていることから，ダブルケアに対する行政的支援が全く不十分であり，家族関係の安定性も失われるケースも少なくありません．家族関係の不安定性は，社会の構成要素としての問題にとどまらず，ワークライフバランスの不均衡を通じた労働供給面にも影響を与える，という意味でまさに社会の長期的な安定性，信頼性につながる社会統合の問題でもあります．

したがってこのダブルケアの研究プロジェクトというのは，現代における社会統合の側面に着目した，まさに先端的な学問的課題であると思っております．

さて，このダブルケアという問題は早晩，日本のみならずアジア社会の大きな政策課題になると思います．少子高齢化を迎えた課題先進国の日本から，このダブルケアの研究や政策構想を発信していく事は，アジア域内諸国の持続的な発展を考える上で，大変重要な課題だと考えています．こうした意味でダブルケアというのはグローバルな課題だと思います．それと同時にダブルケアは地域においていわば縦割りの子育て支援と介護，この2つを包摂的にどう再編するのか．そして支援者の雇用をコミュニティ経済の中でどう作り込んでいくのかという意味で，重要な地域再生というローカルな課題でもあります．こうしたグローバル，ローカルの両側面をもつダブルケアについて，このシンポジウムを通じて社会への認識が深まり，その支援が全国へと広がることを願っています．

（横浜国立大学学長）